



## ★ 麦類「赤かび病」に注意 ★

赤かび病の多発が予想されます。適期防除を徹底しましょう。

麦類の赤かび病(写真1)に対する1回目の防除適期(赤かび病に感染するリスクが高い時期)は、二条大麦では葯殻の抽出期(写真2左、出穂期の14~16日後)、小麦では開花を始めた時期(出穂期の4~5日後)から開花期(写真2右)とされ、2回目の防除適期は1回目の1週間後とされています。



写真1 赤かび病(矢印、小麦)

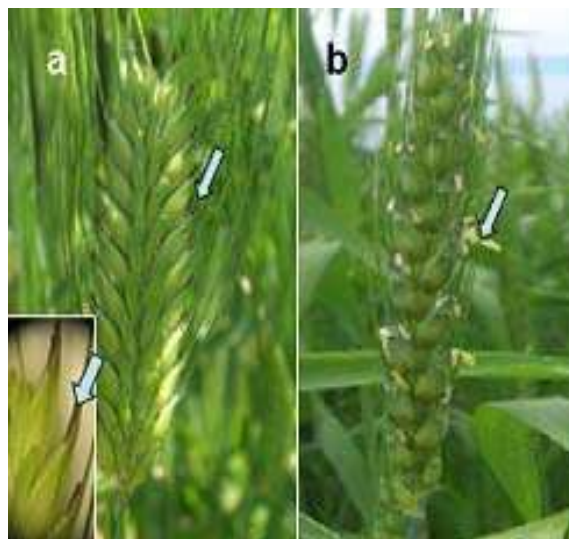


写真2 麦類の防除適期(1回目)

a:二条大麦の葯殻の抽出(矢印、左下:拡大写真)

b:小麦の開花(矢印)

この時期に赤かび病菌の子のう胞子の形成と飛散を促す気象条件(日最高気温が15℃以上、日最低気温が10℃以上、湿度80%以上か降雨直後)が重なると、赤かび病に感染するリスクが高くなります。気象予報(大阪管区气象台、令和8年3月26日発表)によると、向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されていることから、本病の発生が懸念されます。

農林センター栽培技術開発部の作況調査では、所内ほ場「せときらら(小麦)播種:11月第3半旬」の出穂期の平年日(過去10年のデータの平均)は4月13日となっています。気温が平年より高いことが予想されていることから、出穂期も早まると考えられます。赤かび病多発のおそれが高まっていますので、適期を逃さないように2回防除を行いましょう。

### 防除上の注意事項

- (1) 出穂期、穂揃い期及び開花期は品種、播種時期、ほ場の場所及び栽培条件等で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断してください。
- (2) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり、防除効果が低下しやすいので、排水対策はしっかりと実施しましょう。